

### サステナビリティガバナンスとサステナビリティ委員会

内ヶ崎 茂  
水谷 晶

#### 目 次

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. はじめに                 | 4. サステナビリティ委員会のベストプラクティス |
| 2. サステナビリティ課題に対する責任     | 5. 終わりに                  |
| 3. 統合サステナビリティガバナンスへの道のり |                          |

サステナビリティガバナンスを後押しする最近の動向を整理しつつ、それを実現する仕組みとしてのサステナビリティ委員会について、欧米および日本のベストプラクティスを交えながら、今後の方向性を提言する。

#### 1. はじめに

サステナブル（持続可能な）開発やサステナビリティ（持続可能性）が社会全体の課題として台頭したのは、最近に始まったことではない。1972年に初の環境をテーマにした国際会議が国連人間環境会議として開催され、同年、西欧の有識者で構成された民間団体のローマクラブは「成長の限界」にて「持続可能な開発（Sustainable

Development）」という言葉を用いて経済成長が環境におよぼす悪影響を明らかにした。この概念はその後、1984年に日本の提案で設立された、「環境と開発に関する世界委員会」（WCED：World Commission on Environment and Development）が、1987年に発行した最終報告書「我ら共有の未来（Our Common Future）」に登場したことで定着し、「未来世代のニーズを満たす可能性を損なわない範囲内で現世代のニー



内ヶ崎 茂（うちがさき しげる）

HRガバナンス・リーダーズ(株)代表取締役社長CEO。早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了、早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了（MBA）。企業のボードガバナンス・アドバイザー業務に携わる。著書に『日本経済復活の処方箋—役員報酬改革論（増補改訂第2版）』（共編著、商事法務、2016年）など。



水谷 晶（みずたに あきら）

HRガバナンス・リーダーズ(株)コーポレートガバナンスR&D部シニアマネージャー。慶應義塾大学経済学部卒業（環境経済学専攻）。大手IT企業、J-REIT運用会社でSR・コーポレートマネジメント業務、大手資産運用会社でスチュワードシップ・株式リサーチ・運用企画業務、大手信託銀行で企業のガバナンスに関するコンサルティング業務に携わる。